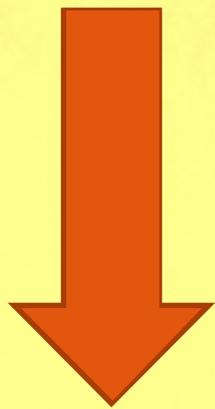


I コミュニティ・スクール導入の経緯

昭和37年 地元旧4カ町村（御浜町・鵜殿村・紀宝町・紀和町）の強い要望・甚大な努力により
普通科全日制高校として設立



【近年】

- ① 過疎化・少子化の著しい進行
- ② 中学校卒業予定者の私学等への流出

学級減、慢性的な定員割れ



学校の存亡が問われる



紀南地域（南牟婁郡＋熊野市）の人口推移

単位：人



本校の定員充足状況 ①

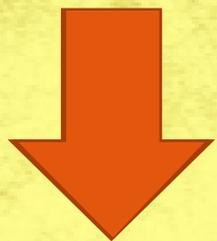
	募集定員	合格者数	過不足	充足率
H 1 2 年度	200	193	- 7	0.97
H 1 3 年度	200	145	-55	0.73
H 1 4 年度	160	130	-30	0.81
H 1 5 年度	160	112	-48	0.70
H 1 6 年度	120	86	-34	0.72

三重県の方針

- 県立高等学校再編活性化基本計画(H13. 5)
県立高等学校（全日制課程）の適正規模
→ 原則 3～8 学級
- 県立高等学校再編活性化第二次実施計画(H16. 12)
小規模校は関係地域ごとに当該高等学校を中心に
設置した「協議会」等において活性化に向けた方策
を検討



H16年「紀南地域高等学校再編活性化協議会」設置



「地域の学校」として再生を図ろうと議論

H17～H18年度 文部科学省の「コミュニティ・スクール
研究指定事業」に着手



H19年6月1日 三重県教育委員会より「コミュニティ・
スクール」(「学校運営協議会」を設置する学校の指定
を受ける)〈県内高校として初。全国で3番目〉

